

# 富山で育つ宿根草の組み合わせとデザイン ～ 45 セキヤノアキチョウジ ～

職藝学院

教授 渡邊美保子

セキヤノアキチョウジは、日本原産のシソ科の宿根草です。草丈は120cmほどで、10月初旬から中旬にかけて鮮やかなコバルトブルーの細長い花をたくさん咲かせます(写真1)。空中に浮かんでいるように咲く薄い筒状の花に光があたると、水に溶けてゆく青い絵具のように花色が変化してきれいです。筒状の花の先端を外側に反り返し、うつむきながら咲く姿は楚々とした美しさがあります(写真2)。花は枯れずにそのままの姿で落ちるので、地面がまるで海のように青く染まります。



写真1 セキヤノアキチョウジ。10月中旬。9月下旬に茎はセピア色に染まり弓なりに曲がる。茎の先端に向かって白い玉のような小さなつぼみが現れ、やがて下向きの筒状の花が咲く。針のように細い花柄は墨のように黒く光り、青紫色の花の色をより際立たせる。右後方は、ダルマシオンの茎と葉。

3月中旬になると萌黄色の新芽がふくらんできます(写真3)。前年に開花した茎の基部から木の芽のような新芽がいくつも伸びてくるのです。4月になると、黄緑色の葉が向かい合って開いて一日ごとに茎も伸び、こんもりと茂ります。茎の伸長はとても早く、5月初旬には50cmほど、6月には80cm位になります(写真4)。10月に開花する頃には、120cmに達します。

草丈を低くしたい時には、夏至の頃を目安に茎を地面から10cmほどの所で切ります。残した茎の

節から2つの新芽が再び向かい合って伸びてきて7月中旬には30cmほどに茂り(写真5)、70cm位で花を咲かせることができます。草丈が高くなり倒れてしまう宿根草は、この方法で開花する草丈の調節をすることができます。しかも切ることで、開花を少しだけ遅らせることができます。セキヤノアキチョウジは、花が咲く前の9月中旬頃から葉が黄橙色にくすんでくるため株全体が黄土色に変化しますが、切り戻しをすることで淡い黄緑色の葉を保ちます。

午前中からお昼ごろまで太陽の光があたる場所を好み、西日は嫌います。西側に草丈が130cm程度になるダルマシオンを植えると西日も避けられて、ダルマシオンの青味がかかった茎や葉が背景になり小さな花が引き立ちます。



写真2 10月中旬。筒状の細長い管のような花が咲く。花は下から順に開花してゆく。



写真3 3月中旬。前年開花した茎の基部のあたりから新芽がたくさん出てくる。



写真4 6月初旬。花茎は3ヶ月で80cmほどに伸びる。葉は明るい黄緑色。茎の断面は四角く葉は対生。



写真5 7月中旬。夏至の頃、地面から10cmで切ると、1ヶ月後には新しい茎が30cmほど伸びる。